

# 秋冬ホウレンソウ品種 「フィーリング125」の紹介と産地事例

雪印種苗(株) 千葉研究農場

本 多 範 久

## 1 はじめに

ホウレンソウはビタミン、ミネラル類などを豊富に含み、栄養価の高い健康野菜として、周年食卓に欠くことのできない重要野菜です。一方、生産者にとっては、収穫までの日数が短く、圃場の利用効率が高い野菜であることから、取り組みやすい野菜といえます。特に、秋～春にかけては栽培的に容易と思われるが、それだけに良品出荷を心掛けることが重要となります。

弊社では秋冬播き品種として「フィーリング125」「バルタン」「アールフォー」などを発表しておりますが、今回は特に「フィーリング125」の特性と栽培の要点について、産地事例と併せてご紹介させていただきます。

## 2 『フィーリング125』の特性(写真1,2)

### 1) 耐病性で根張りの良い、作りやすい剣葉種

葉先が尖り1～2段の欠刻が入る剣葉種です。

耐病性は多湿条件で発生する‘べと病’に対しレース1～4の抵抗性を持っています。また、細根が多く根張りが良いことから、湿害に強い傾向があります。

### 2) 冬期の露地・トンネル栽培に最適！

～生育はじっくり、濃緑・肉厚の多収穫～

葉色は濃緑で商品性が高く、色褪せしにくい品種です。秋～春播きでじっくり生育し、気温がやや温暖な時期にも葉柄が伸びにくいいため、収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。また、広葉で葉肉が厚く、収量が上がります。

### 3) 収穫・調整作業が容易な省力種

ホウレンソウは作業性を重視する野菜ですが、



写真1 フィーリング125



写真2 濃緑・立性で外観良好  
(11月播き トンネル栽培)

本種は立性で収穫時の葉のからまりが少なく、葉柄は折れにくいいため収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくいいためF Gフィルム詰めが容易です。

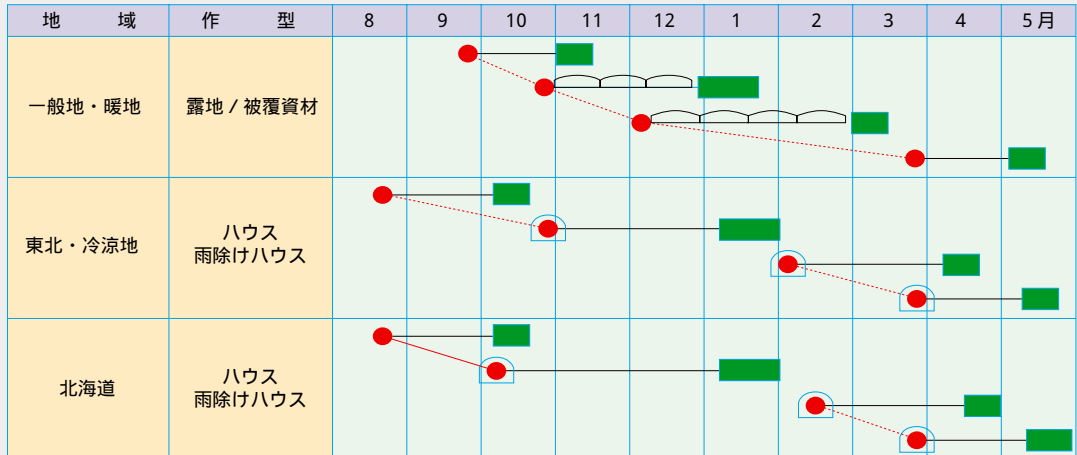


図1 『フィーリング125』の適応作型

●: 播種期 —: 生育期 ■: 収穫期間

### 3 適応地域および作型 (図1)

#### 1) 一般地・暖地 (露地・トンネル栽培)

最適播種期: 9月上旬～3月下旬

#### 2) 東北, 冷涼地 (ハウス栽培)

最適播種期: 8月下旬～10月下旬  
2月上旬～3月下旬

#### 3) 北海道 (ハウス栽培)

最適播種期: 8月下旬～10月上旬  
2月中旬～3月下旬

### 4 栽培上の注意点

1) 栽植密度は条間15～20cm, 株間4～5cmを標準とします。極端な厚播きでは徒長しやすくなるので, 適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

(種子はサイズ分けと特殊処理を施したSTEP種子となっていますので, 催芽の必要はありません。)

2) 厳寒期(1～2月どり)はべたがけ, トンネル資材の使用を基本とし, 生育をスムーズに進め, かつ葉面の縮みが少ない良品を生産するよう心掛けてください。

3) 初春播きでは, 温暖な時期になりますので, 1回の播種量を少なめにし, 収穫期を逃さないように注意してください。抽苔は比較的遅い方ですが, むやみな遅まきは抽苔の危険があるので, 播種期を厳守し, やや粗植栽培を心掛けてください。

4) 環境条件や生育条件によってはべと病の発生が心配されるので, 栽培管理(トンネル換気, 殺菌剤散布など)によって発生する原因を減らし, 早めに防除を行ってください。

### 5 産地事例

#### 産地の概要

千葉県船橋市は千葉県の西部に位置し, 近くには京浜・京葉という一大消費地を抱えています。この立地条件を生かし, 典型的な都市近郊農業が営まれ, 近年は軟弱野菜栽培が伸びてきました。気候は, 県内でも寒暖の激しい地域です。土壌は関東ローム層の火山灰土で, 野菜作りに適した土壌と言えます。

今回, ご紹介する「野瀬さん」は, 夏はエダマメ(写真3～6), 冬にホウレンソウを栽培する専業農家さんです。「フィーリング125」の特性を生かし, 被覆資材をうまく利用することで, 年内から早春まで, 良品の連続安定出荷を図っています。

#### 1) 経営・栽培の概要

耕地面積は60aで, 播種～収穫・調整作業まで家族3人で行っています。作型は以下のとおり。

#### ホウレンソウ

9月中旬～3月下旬播き: 「フィーリング125」

4月上旬～5月上旬播き: 「サンライズ」

エダマメ

3月上旬～7月中旬播き: 「サヤムスメ」



写真3 野瀬さん露地畑 夏はエダマメ栽培



写真4 サヤムスメ 収穫風景



写真5 生産者の野瀬さん サヤムスメ調整作業



写真6 サヤムスメ荷姿

## 2) 「フィーリング125」の導入経緯

「フィーリング125」が導入される前は、秋播きで湿害による黄化症、また、厳寒期では凍害による葉焼けの症状が発生し、歩留まりが良くありませんでした。そこで、本種を栽培したところ、従来の品種に比べ細根が多く根張りに優れ、黄化症の発生がありませんでした。また、凍害もなく耐寒性に優れることから導入にいたしました(写真7,8)。現在では、秋～初春まで、継続的に作付けをしています。

## 3) 栽培技術

### 播種

適期収穫を行うために、収穫時の労力にあわせて播種を行っています。9月中旬から5月上旬まで、継続的に播種を行い、10月中旬から6月下旬まで切れ目なく出荷をしています。

栽植密度は条間約15cm、株間約13cmとし、平ベットに3粒点播します。播種作業には手押し式播種機「ごんべい」を利用しています。

### 管理

11月から品質向上や生育促進効果を目的にトンネル資材を利用します(写真9)。2月播きは気温上昇期となるため生育の程度をみながらこまめに換気します。

病虫害防除として、アブラムシ、ダニ、ヨトウムシなどには、デス乳剤やアグロスリン乳剤を散



写真7 細根量の違い  
他社品種 / フィーリング125



写真8 フィーリング125草姿  
(11月播き トンネル栽培)



写真9 品質向上、生育促進のため、トンネル資材を利用

布しています。また、夏場にエダマメを作付けしていることから、センチュウ対策としてD-Dで土壤消毒を行っています。また、レース4抵抗性品種の導入により、べと病の被害はありませんが、殺菌剤の散布で予防を図っています。

肥培管理として、エダマメを収穫した後に、鶏糞を10aあたり750kgと石灰資材を散布し耕うんします。後は、随時ハウレンソウを播く時に窒素分として10aあたり約10kg程度施肥します。

#### 4) 収穫・調整作業

収穫時期の目安は市場性の良い出荷規格M級から収穫を始め、2Lの上限で終了するように作業を行っています。調整作業は作業場で行われ、ハウレンソウの下葉3枚程度を1本1本調整し、泥



写真10 フィーリング125 荷姿  
葉・葉柄色濃く、照りがあり、根張り優れる

がついていないか、食害がないか、病気がないかを選別し、結束します(写真10)。結束したハウレンソウは、速やかに保冷库に入れ冷却されます。出荷する市場での貯蔵環境を考慮に入れ、急激な温度変化をきたさないよう留意しています。1日の収穫量は平均500束で行われ、連日出荷の体制にあります。

## 6 むすび

今回、ご紹介した『フィーリング125』は、一般平坦地・冷涼地の秋～初春まきで、葉身と葉柄のバランスの良い株に仕上がる秋冬ハウレンソウとして、各地で好評頂いております。本種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。